

埼玉育ちのグローバル人

Well-being な生き方。～心健やかに、共に生きる～

最終回「友達になるコトが共生への近道！」



埼玉県マスコット「コバトン」



Well-being Make 代表 尾崎のりこさん

みなさま、こんにちは！

埼玉県狭山市を中心に、日本語を母語としない方々のメンタルヘルスケア・社会活動支援を行っております、

Well-being Make(ウェルビーイング メイク) 代表尾崎のりこです。

今回は、多文化コミュニティ作りの事について書きたいと思いますが、

前回の記事で“日本語を母語としない方々は文化や言葉の違いから、日本人の独特な“コミュニティ”に馴染みづらい“と書いたのですが、この言葉はある中国人女性との会話が基になっています。

ある日、私が地元のファミリーレストランで食事をしていました。

隣のテーブルに40代と60代くらいの女性が二人座わり、中国語での会話が聞こえて来ました。

私はこのWell-being Make(ウェルビーイング メイク)の活動をスタートしていた時でしたので、

これはチャンス！と思い、タイミングをみてその女性達に話しかけました。

一人の方は日本人男性と国際結婚をし、日本語も流暢で日本語での会話が可能でした。

もう一方のお友達は観光で遊びに来ているとの事でした。

在住している中国人女性に私の活動の話をし、今どんなことで困っているかを聞いてみました。

日本の在住年数は10数年あったと記憶していますが、彼女が一番困っていること、それは、

『日本人の友達が出来ない』という事でした。そして、追い打ちをかけるように、彼女は私にこう言ったのです

『日本人は中国人のこと嫌いでしょ』つと。。。

私は返事に困り、胸をえぐられるような、何とも言えない悲しい思いを経験しました。そのことをキッカケに、多文化コミュニティ作りを、「今こそ、私がやらなければ！」と強く思ったのです。

多文化コミュニティづくりは、主に友達作りを目的とした交流会です。

月に1度、「GET ALONG talks/おしゃべり交流会」と題しまして開催しております。

この交流会は2017年2月からスタートしましたが、今までに中国人、ベトナム人、ネパール人、ブラジル人、ウクライナ人、フィリピン人の方々が参加しています。

簡単な日本語での会話や英語を使って、その時々合わせた話題で、皆が自由におしゃべりをし、交流するというアットホームな会です。年齢や性別も問いません。もちろん、日本人の方にもご参加頂いております。

また、講師の方をお招きし、「やさしい日本語講座」の勉強会も日本人向けに開催致しました。

以上、3回に渡りお届けして参りました私の活動紹介ですが、私が添乗員として働いていた事、エジプトで少女と出会った事、化粧療法を学んだ事、多文化共生を学んだ事、様々な出来事は全てが繋がっていて、これをまとめあげる事が、私の人生のミッションのように感じています。

既にお気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、団体名の Well-being Make の Make は、Make-up の Make と、～を作る の Make をかけています。

Well-being とは、心身共に健やかである状態のと言い、皆が“心健やかに、共に生きる”社会を作ろう！という想いが込められています。

まだまだ伸びしろのある団体ではありますが、最近では市役所の協力も得られるようになり、住民

登録に来る外国人の方々へチラシ配布をし、市内での認知を広げています。

メンタルケアから多文化コミュニティー作りまで、年齢、性別、国籍、言語、あらゆる垣根を取り除き、ボーダレスな環境で“健やかに、共に生きる”為の活動を、今後も精力的に進めていきたいと思っています。

みなさんもぜひ私と一緒に活動しましょう！

最後までお読み頂き、誠にありがとうございました。

Well-being Make 代表
尾崎のりこ